



カテゴリ: 機材・ダイヤ

2025年3月19日
第24129号

JAL、ボーイング737-8型機17機追加導入を決定

～今後の導入機材が90機規模となり、成長に向けた機材を確保～

JALは、ザ・ボーイング・カンパニー（以下、「ボーイング」）の737-8型機について、17機を追加導入することを決定しました。

ボーイング737-8型機は、現在国内線を中心に運航中の小型機、ボーイング737-800型機の更新機材として、2023年3月に確定21機を発注しております（※1）が、このたび、17機を追加導入することにより、ボーイング737-8型機を合計38機導入することとなります。

国内線では、今回追加導入を決定したボーイング737-8型機に加え、ボーイング767型機の更新機材として導入を決定済みのエアバスA321neo型機11機を羽田発着路線を中心に投入予定です。需給に適合した機材更新を行うことで、より収益性を高めてまいります。

（※1）2023年3月23日リリース [JAL、ボーイング737-8型機 21機の購入契約を締結](#)



国際線においてもボーイング787-9型機10機（※2）、エアバスA350-900型機20機（※3）を今後導入し、ZIPAIRではJALからの機材配転によってボーイング787-9型機を導入（※4）します。2030年度には、フルサービスキャリア、LCCを合わせ、国際線の事業規模を2023年度対比約1.5倍に拡大します。特に、今後成長が見込まれる北米・アジア路線を中心に、便数を増加させるとともに、機材を大型化し提供座席数を増やすことで、サービス品質および利便性を高め、事業規模をさらに拡大していきます。

（※2）2024年7月23日リリース [JAL、ボーイング787-9型機の追加購入契約を締結](#)

（※3）2024年7月23日リリース [JAL、エアバスA350-900型機およびA321neo型機の購入契約を締結](#)

（※4）2025年3月19日リリース [ZIPAIRプレスリリース ボーイング787-9型機の導入を決定](#)

今回新たに追加導入を決定した737-8型機を含め、JALグループにおいて今後導入する機材は合計で90機規模となります。2030年以降の成長を見据え、早めに機材発注を行うことで、確実な成長を果たせるよう、柔軟性をもった機材計画を立て、新造機の導入に備えております。

最新鋭機材の導入を加速することで、お客さまにより良いサービスを提供するとともに、省燃費機材への更新により、さらなるCO₂排出量削減にも努めてまいります。



【今後の導入確定機材内訳】

機種	導入機数	導入時期
ボーイング 737-8	(国内)38機	2026年度～
エアバス A321neo	(国内)11機	2028年度～
ボーイング 787-9	(国際)10機	2028年度～
エアバス A350-900	(国際)20機 (国内)3機	2027年度～ 順次導入中
エアバス A350-1000	(国際)5機	順次導入中

以上